令和 2 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ほっともとみや （ユニット①）

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0390100022		
法人名	岩手県高齢者福祉生活協同組合		
事業所名	グループホーム ほっともとみや （ユニット①）		
所在地	〒020-0866 盛岡市本宮6丁目14－12		
自己評価作成日	年月日	評価結果市町村受理日	令和3年1月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年11月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・利用者がそれぞれの時間で多少の時間差も気にしないで生活しています。
・体操や掃除・食事の時間等決まっている流れはあるが各個人を尊重し、時間の差は生活の一部とし捉えています。
・一人一人に向き合い対応し、笑顔で楽しく過ごしてもらえるよう対応しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

盛岡市の盛南開発エリアに位置し、開所15年目の民家風2階建て2ユニットの事業所である。近隣に病院、大型ショッピングセンター、美術館、公園があり、閑静かつ生活環境も恵まれた地にある。利用者がほっと出来るホームを目指し、理念を「みんなの和・笑・輪を大切に…共に喜び 共に悲しみ 共に助け合う」とし、利用者一人一人に寄り添った支援を行なっている。利用者・家族の希望に応え、複数の医療機関から訪問診療を受け入れ、訪問歯科・訪問薬剤も来所する健康管理の仕組みが出来ている。開所時から重度化、終末期の対応を整え、今日まで十数件の看取りを実施している。町内会に加入し、地域住民の理解と協力を得て活発な交流が図られており、老人クラブのリハビリ体操の講師に職員を派遣しているほか、夏祭りを自治会と共催し、非常災害時には自治会の協力も約されるなど、地域との連携、交流が一層期待される事業所である。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項 目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項 目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

令和 ２ 年度

２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ほっともとみや （ユニット①）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	見やすい処に掲示し、理念に基づいて毎日和んで、楽しんで、笑顔で過ごしている。	理念「共に喜び・共に悲しみ・共に助け合いながら」は開所時に全職員で話し合ったものである。事業所内に掲示し、日々のミーティングや会議・研修会で確認している。職員は利用者と「悲しみを分かち合いたい」と真摯に向き合っている。	「和・笑・輪を大切に、毎日笑いのある楽しい生活」を目指す支援に努め、喜怒哀楽を出し合い、時には利用者の苦しみや悲しみを汲み取る質の高いケアを実践されております。今後も職員が一体となって、この取り組みを継続されることを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で縮小傾向だが、絵本読み聞かせの受入れや近所の方との挨拶等している。花壇作りへの参加もしている。	自治会に加入し、回覧板も届いている。各種の情報や印刷物は事業所用にと地域の方に配慮していただいている。ホームの夏祭りが発展し地域の行事になっている。実習生の受け入れや町内の絵本読み聞かせボランティアの来所など、多くの交流があったが、今はコロナ禍で見合わせている。地域の老人クラブのリハビリ体操に講師として職員が出向いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で、地域の方々との交流が狭められたが、運営推進会議等で認知症の方々への理解を深める活動をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で地域の方の意見を頂いたり、家族からの意見を頂いたりしてそれに基づきスタッフで話をしサービスに生かしている。	委員は自治会長、民生児童委員、市介護保険課職員、利用者家族で構成され、活発に意見が出されている。困難ケースを先駆的に利用者として受け入れており、委員から高い評価をいただいている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加してくださり施設の状況を把握してもらっている。生活保護の担当の方とケアプランを通じて等関係を築いている。	運営推進会議委員の市介護保険課職員から各種行政情報を得ている。要介護認定申請や入居する生活保護受給者や成年後見制度利用者についても、行政担当者と連携して行なっている。地域に貢献の一環として、事業所内に地域の高齢者が抱える悩み等の相談に預かれる機能を設ける方向で検討している。	

令和 2 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ほっともとみや （ユニット①）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、スタッフ同士で認識しかつ気づきを出し合い共有し、対応している。コロナ禍により、面会制限しているが、正常時にはしない。	全職員で構成される身体拘束廃止委員会は、管理者がチーフとなり3ヵ月毎に開催し、指針も制定している。言葉による行動抑制を含めた身体拘束に関連する事項については、日々のミーティングやカンファレンスで話し合っている。外部の研修に参加した職員による伝達講習を行なっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	ミーティングや申し送りノートにより認識し心かけている。研修に行き、所内で学ぶ機会を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用している方が3名いる。研修に参加し内部研修している。情報は見やすいようにファイリングしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にきちんと説明し（変更時含む）家族が納得し進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等で、本人・家族の意見や要望を受け、スタッフで検討し、支援に結び付けている。	利用者の日々の何気ないつぶやきを聞き逃さないように努め、家族の意見は運営推進会議や面会時、介護計画作成時に把握している。晩酌希望の方にはノンアルコール飲料を提供し、雑誌購読の希望にも応えている。家族からリモートでの面会希望があり、準備中である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務時や、カンファレンス後等で意見交換しやすい雰囲気作りをし、受け止めて生かせるよう努めている。	日々のミーティングや毎月の会議の他、管理者は職員個々に声をかけ、意見、要望の把握に努めている。職員から提案があった全介助利用者の食事時間の見直し、温水器やシステムキッチンの修繕、取り替えなどを具体化している。職員のグループラインを作り、話しやすい環境を整えている。	

令和 2 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ほっともとみや （ユニット①）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スキルアップの為の勤務希望は受け入れてもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップの為（現在、実務講習受講中）の研修機会には希望に応じて参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	メーカーや医療機関の勉強会に参加したり、カンファレンス・ミーティングを通じてケアの向上への意識を高めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	時間をかけて、個々にコミュニケーションをとるよう努め、もしくは、ケアマネが情報を共有しやすいよう提供し安心感を大切にし、信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には特に信頼関係作りに努め、電話があった際などにも家族様が安心してもらえるよう努め、情報を得て、それらをケアマネが情報整理している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族様の心配事を見極めて、それぞれの要望を聞き出し、「いま」できる事への対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が全てをするのではなく、興味があることに注目し、会話やできることに着目し、共に暮らしていく者同士としての信頼関係を心かけている。		

令和 2 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ほっともとみや （ユニット①）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様には感謝している。家族と本人のかかわりを大切に支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で自粛傾向だが、家族との連絡やなじみの病院受診等、本人が楽しそうに過ごす事ができるよう支援している。	家族や知人（職場の同僚やサークル仲間など）との関係を大切にして支援している。かかりつけ医や看護師、グループホームの仲間や職員が新たな馴染みとなり楽しく過ごせるように支援している。コロナ禍のため、家族との外出や外泊（自宅）は見合わせている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士居室を行き来している。スタッフが間に入り、利用者同士、レクやコミュニケーションを通じて、関わりあい、お互いを支えあっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	気軽に寄って下さる方もいらして感謝している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室で過ごしたい方、書き物をかきたい方等、日々の一対一でのコミュニケーションを通じ、可能な限り本人の希望をかなえられるよう支援している。	職員は、利用者一人一人に挨拶し声がけをして、コミュニケーションを取りながら意向お把握に努めている。殆どの方は言葉により表出できるが、言葉がなかなか出てこない場合には、単語をつなぎ合わせて思いを汲み取っている。把握した情報は記録等（チャート）に記すとともに、速やかに職員間で共有が必要な場合には、申し送りに記載している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居室になじみのものを置くなどし安心して過ごして頂くよう支援している。面会ができないので、家族には、距離を取ってもらう等短時間の面会や電話等でコミュニケーションをとって貰ったりしている。		

令和 2 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ほっともとみや （ユニット①）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日その日で状況変化するので、ADLなど、状況把握しカンファレンスで話あい状況の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の日々の思いや家族の思いを聞き、定期的なカンファレンスで話しあい、現状に応じてケアプランに反映している。	介護計画は簡素化した「もとみや様式（私の思いや希望）」で作成し、3ヵ月毎の見直しとしている。カンファレンスでケアマネが中心となって職員から意見を聞きモニタリングをしている。利用者や家族の意向、医師の意見や看護師の助言も加味して作成し、家族に説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	表情や状態を観察するなど日頃の状態はチャートに記入し、情報共有しながら実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が受診不可時、本人の状態変化時等には、主治医変更し往診対応やスタッフが変わって受診付き添いなど対応している（家族や状態等による支援変化）。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	絵本の読み聞かせはできたが、コロナ禍で、実習生受入れ等の外部との接触が難しかった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望を大切に、納得を得られた上で受診を往診に切りかえるなどの対応している。日常の観察力を持って信頼関係を持って対応している。	複数の医療機関の医師が訪問診療で来所し、過半数の利用者が受診している。家族同伴でかかりつけ医を受診する方もいる。適切な医療、看護を受けられるよう訪問歯科医、看護師、薬剤師が来所している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	少しの変化も対応しするよう努め、訪問看護にも連絡・指示受けている。特別指示にも可能な範囲で対応している。		

令和 2 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ほっともとみや （ユニット①）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療関係者との信頼関係に努め、退院時であれば、施設に戻れる状況であれば、早期退院対応を心かけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族様のお気持ちを最優先し主治医との連携の下、納得の上で、医療関係者との情報交換を行い協力を得て終末期のケアにも取り組んでいる。	入居時に指針に基づき重度化や看取りについて説明し、利用者、家族の意向を確認している。利用者の状態の変化に応じて、医師から家族に説明し、改めて意向を確認し同意を得た上で、医療関係者、職員等で相談し合いながら最善の対応を行っている。開設以来、多くの看取り実績があり、利用者、家族のニーズに応え生活の場で終末期を過ごせるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の受講に参加し身につけている。急変時には訪問看護に連絡・指示を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	盛岡市でおこなったシェイクアウト訓練に参加した。今年度中に避難訓練予定。	災害時避難訓練は年2回実施しており、市のシェイクアウト訓練（地震災害を想定し、それぞれが今いる場所で身を守る行動を行う）に参加した。ハザードマップで危険地域とされていないが、水害時は垂直避難としている。自動通報システムには、自治会長と大家さんも登録し協力体制を整えている。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	書物の書き物、自室で過ごしたい人等には尊重して過ごしてもらっている。何もできないと話される人にはできることを待つ姿勢で対応したい。言葉かけには注意している。	個性、特性が異なる利用者一人一人の多様性を十分に理解し、それぞれの気持ちに寄り添い、安心感を持って生活してもらえるよう支援している。トイレ利用時や入浴時などは利用者の羞恥心に配慮し、居室へ入る際は了解を得る様にしている。	

令和 2 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ほっともとみや （ユニット①）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の意思確認や、気持ち・思いに寄り添い、都度、本人の思いの実現に向けて働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースや思いに応じて、スタッフはそれを尊重し、個別対応し、安心して過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服は選べる方は自由に、支援必要な方は支援している。個性に応じて、スタッフはその方の身だしなみの良い点を言葉にし伝え、直したりもしつつ、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	できる方は洗濯干し、たたみ方、掃除等をしている。食器拭き、テーブル拭き、片付け等をしてもらっているが、感謝の言葉かけを通じて、それらを通じて楽しく食事をとってもらってもいる利用者もいる。	利用者との日常会話やつぶやきから好みを把握して献立を作り、職員が交代で調理している。誕生会では利用者の希望メニューを取り入れ食事を楽しんでいる。利用者は、食材の皮むきやテーブル拭き、食後の食器拭きなどを職員と共に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を使用している。刻みや栄養ドリンクの提供、10時15時には水分補給、それ以外のこまめな水分補給もこころかけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、本人にあった補助器具も使用し仕上げ支援もしている。訪問歯科の利用もしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄中心での対応を心かけている。もし、間に合わない時にも言葉使いに注意し、自尊心に配慮した支援を心かけている。	利用者の排泄パターンを把握して個別に対応しており、殆どの方がトイレで排泄している。布パンツ利用は数名で多くはリハビリパンツにパットを併用している。夜間のみオムツを使用している方は数名である。ほとんどベッドに横たわっている方にも、時には便座に座ってもらうなどして、出来ることへの支援を行なっている。	

令和 2 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ほっともとみや （ユニット①）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食べ物・水分等、歩行運動・体操等気を付けている。　医師・訪問看護に相談し、薬処方の方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には午後であるが、希望時には午前の対応もある。入浴中に楽しいと思って気持ちよく入ってもらえるような会話したりし支援している。	入浴は毎日可能で午後の利用を基本とし、利用者は週2、3回入浴している。季節に応じ菖蒲湯や柚子湯を楽しみ、好みの入浴剤を使う方もいる。入浴中は1対1となり職員との会話を楽しみ、本音の気持ちを口にする方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	好きな時間に休んだりできるよう自由に行動できるよう支援している。体調に応じて、休んでもらうなど支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬を理解し、内用が分かるようファイリングしている。スタッフ同士で誤薬防止で相互確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体操、ドライブ、干し柿作り、食器拭き、レクなどの楽しみ事などを通して、希望生きる喜びや自信とりもどせるよう、その人らしさを大切に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出できず残念な思いをさせてしまったが、外に出て気分転換を図っている。散歩やドライブ等、ウッドデッキ等で気分転換してもらっている。密を避けていたが、いろいろな関わりが薄くなってしまっている。	コロナ禍で外出が制限されているが、屋外へ出る事は気分転換やストレス発散になるので、ウッドデッキで外の光や風を感じたり、ホームに隣接する東屋でお茶のみをしたりして、気分転換している。利用者2、3人で施設周辺をミニドライブしたり、少し足を延ばして紅葉狩りのドライブも楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布持参は一名（家族の了承の下）、お金管理が難しい方が多く、スタッフが支援している。		

令和 2 年度　　２ 自己評価および外部評価結果

事業所名 ： グループホーム ほっともとみや （ユニット①）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、自由に電話かけたりし家族からも自由に連絡が来ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、温度調節をしたり、季節に合わせた飾り（七夕、水木団子・五月人形等をしている。他、動きやすいよう、物に溢れない様に心かけている。	リビングには食卓テーブルやソファー、椅子が置かれ、採光や温度、湿度の調整にも配慮されている。季節の花を飾り、みずき団子、五月人形などの行事の飾りで季節感を大切にしている。日中は殆どの方がリビングで共に過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事席は自由にしているが、定まった席がおちついている様子リビングにソファーを置きくつろいでもらえるよう支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	好きなもの、テレビや衣装ケース、なじみのもの（写真等）などで安心して過ごしてもらえるよう支援している。	クローゼット、ベッド、蓄熱式暖房機が備えられている。利用者は各自馴染みの小物やテレビ、衣装ケースを持ち込んでいる。壁面には家族写真やカレンダー、色紙などが飾られ居心地よく過ごせる工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ口腔ケアなど、安全面には最大限に配慮し手すり		